

厚木はどんなまちで

厚木で暮らす皆さんに、思い描く未来のまちの姿を聞きました。



中学生
戸田 光崇さん (14・棚沢)

厚木の代表として皆さんと話ができる
と思い、総合計画のワークショップに参加
しました。僕たちのような学生が遊べる
場所がたくさんあり、もっと若い人
たちがにぎわうまちになったら
うれしいです。

私立の中学校に通いながら、
生徒会に入ったり、硬式テニス
を習ったりしています。

ジュニアリーダーとして地域の
子どもが関わるイベントの企
画・運営などをしています。

厚木は子どものために動いてく
る大人が多いと感じています。
これからもっと、子どもの存在
や気持ちに寄り添ってくれ
る、温かい人が増えてくれ
たらいいなと思っています。



ジュニアリーダー
佐藤 まるみさん (17・まつかげ台)

東日本大震災をきっかけに
就農し、十年前から市内で
野菜や米の有機栽培をし
ています。



農業者
鈴木 貴さん (45・中荻野)

綾瀬市で生まれ、親の仕事で全国を転々
とした私にとって、ここは初めて地元と呼
べる場所で、消防団などの地域活動にも
どっぷり入り込んでいます。ずっと自然
と調和した農業を続けられる
まちであってほしいです。

長年この土地で続く郷土芸能は、
大事な文化。演じる人も見る人
もみんなで盛り上げて、つない
でいけたらと願っています。

荻野村が厚木市になった頃、私は中学生で
した。当時、駅周辺は水田がいっぱいで、今
とはずいぶん違いますが、いつになっても
帰って来るとほっとする場所です。



国の重要無形文化財「義太夫節」総合認定保持者
竹本 土佐子 (本名: 林ミチヨ)さん (81・下荻野)

市立小・中学校などで教員
をしながら、約三十年間、
広報あつぎで自然の営みを
伝えてきました。



広報あつぎ「自然歳時記」作者・愛川ふれあいの村学芸員
吉田 文雄さん (81・飯山南)

自然から学ぶことはたくさんあります。
特に子どもたちが自然に触れ、「これは
何？」と思うことは大切です。そんな気持
ちを生かしてあげて、持ち続ける人が増
えるとき、きっといい世の中になると思いま
す。未来も自然と触れ合えるまち
であってほしいと願います。

あってほしいですか？

皆さんは厚木がどんなまちであってほしいですか？



はたちのつどい実行委員
乙部 鷺之介さん (20・恩名)

厚木は田舎すぎず、都会すぎない、
暮らしやすいまちです。

初めは日本語が話せず苦い経験もあり
ましたが、交流会で知り合った友達や日
本語を教えてくれた方たちに支えられ
ました。これからも皆に愛される
まちでありたいです。



外国籍市民交流委員会
サハ・ビブルカンテさん (44・田村町)

約二十年前にバングラデシュ
から東京工芸大学に留学し、
今は市内企業で働いています。

便利さやまちの発展も大切だと思
いますが、子どもや高齢者、障
がい者などに寄り添うまち
であってほしいです。その温かさ
が誇りにもつながると思います。



学校職員
阿部 日出子さん (65・元町)

仕事でインクルーシブ教育に
携わっています。市の保育と
教育の現状や未来に興味が
あり、総合計画のワークショッ
プに参加しました。

ロックンロールも福祉も、全ての生き方を
肯定し幸せになるためにあるもの。
「みんな大丈夫」という、懐の深い
まちになってほしいです。



サルサガムテープ主宰・5代目うたのおにいさん
かしわ 哲さん (74)

旭町にある障害福祉サービス事業所
を拠点に、そこに通う皆さんとロック
バンド・サルサガムテープの活動を
しています。バンドは結成三十周年
を迎えました。

商工会議所会頭や観光協会会長
などを任せていただく中、これ
からも厚木は、都心・横浜・箱
根から近い立地の優位性や、相
模川・大山・あつぎ温泉郷など
の自然が織りなす観光のポ
テンシャルを生かしなが
ら、多くの企業が立地す
るバランスのとれたまち
であってほしいです。



市制70周年記念事業実行委員長
中村 幹夫さん (77・上依知)

高校卒業後に地元の高知県を
離れて内陸工業団地の会社で
働き始め、二十五歳で友人と
起業し、厚木が商業のまち・若
者のまち・産業のまちへと移り
変わる姿を見てきました。